

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

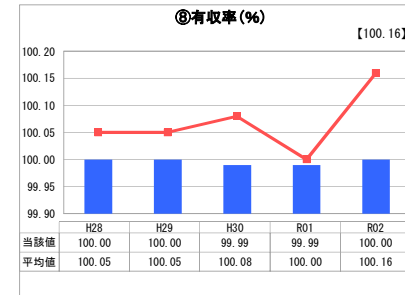
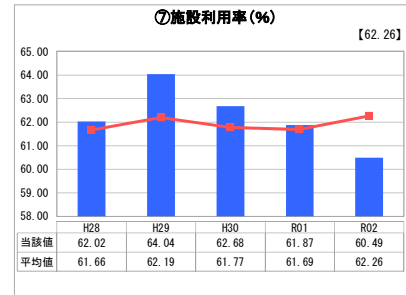
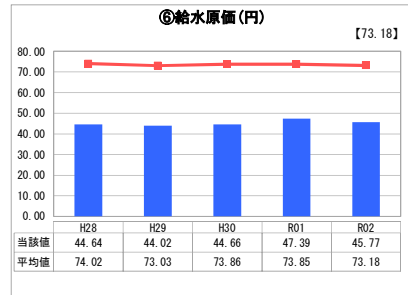
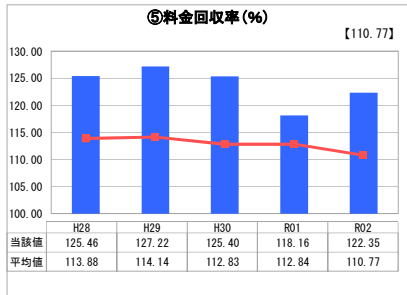
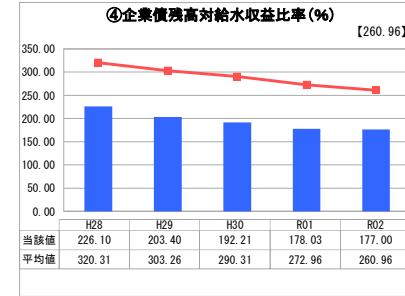
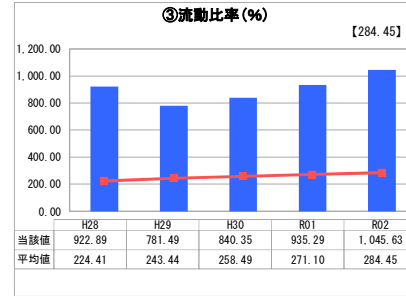
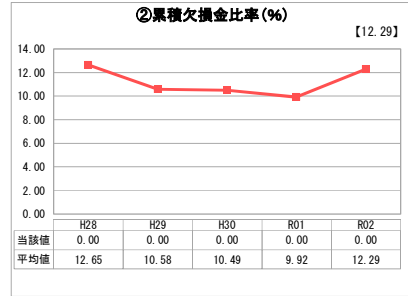
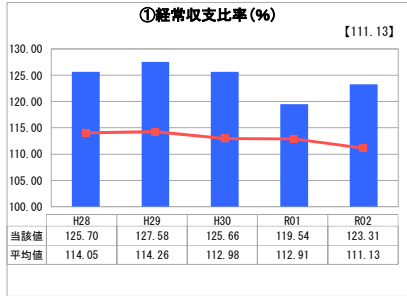
岡山県 岡山県南部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	75.05	99.85	0	

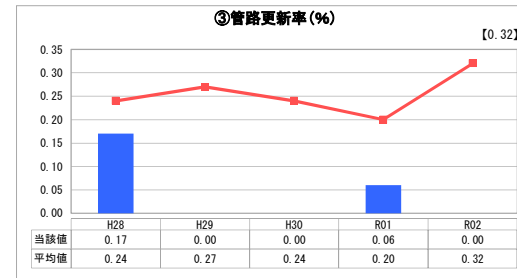
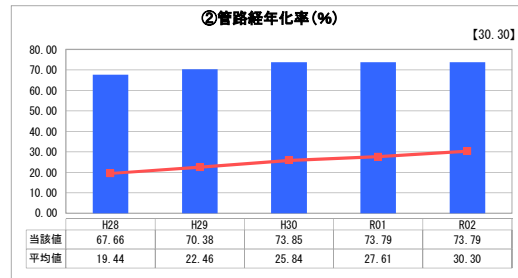
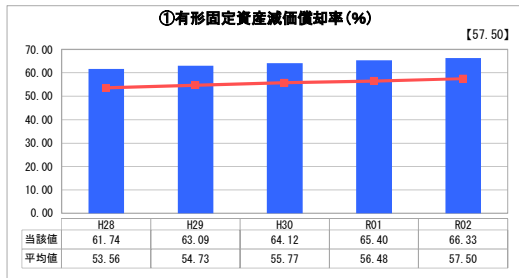
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,243,508	1,209.30	1,028.29

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、送水収益の減少はあるものの経常費用の減少により100%を超えて良好に推移しており、健全な水準を維持している。
- ②累積欠損金比率は、送水収益が減少傾向にあるものの0%を維持しており当面欠損金が発生することはないと考えられる。
- ③流動比率は、100%を大きく上回っており、短期的債務に対する十分な支払能力を有している。
- ④企業債残高対給水収益比率は、企業債の発行抑制により良好に推移しているが、大規模な施設更新が控えており、将来的には当該比率の上昇が考えられる。
- ⑤料金回収率は、100%を超えて良好に推移しており、送水に係る費用を料金で賄うことができている。
- ⑥給水原価は、経費節減などにより前年度より低下し良好に推移している。
- ⑦施設利用率は、平成29年度に上昇したものの低下傾向にあり、施設更新時には、適切な施設規模を考慮し、施設の統廃合・ダウンサイジング等の検討が必要である。
- ⑧有収率は、概ね100%で推移しており、送水量が収益に高く反映されている。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を上回る水準で、施設の老朽化が進んでいる。緊急性・優先度を考慮し、計画的な施設更新が必要である。
- ②管路経年化率は、類似団体平均値を大きく上回る水準で、管路の老朽化が進んでいる。漏水発生頻度も増えており、耐震化を含む早急な更新が必要である。
- ③管路更新率は、近年ほぼ0%で、特に幹線管路の更新はほとんど進んでいない状況である。耐震化を含む積極的な更新が必要である。

## 全体総括

経営状況について、これまでのところ健全で効率的な運営ができており、堅調に推移していると考えられる。

今後、施設全体の大規模更新事業が本格化し、事業費が大幅に増加する中、水需要は減少傾向にあり経営の健全性を維持することは困難になると考えられる。

平成30年度には、施設更新の基礎となる「第二次整備計画」が完成し、令和元年度には経営戦略を策定した。増大する更新需要に対し、料金改定を含む資金の確保に努め、計画的かつ効率的な更新事業を進めていく予定である。